

## スペイン語が公用語に？

### 2000年 Census 結果から

2001年9月4日

藤原清明

#### 1 ますます多様化するアメリカ社会

前号でも紹介したが、今年の春から夏にかけて、2000年に実施されたセンサスの結果が次々と公表された<sup>1</sup>。結果を一言でまとめると、「アメリカ社会はますます多様化している」ということになるだろう。その一つの例示として、人種別の人口構成の変化を見ると、白人の割合が83.9%(1990年)から82.2%(2000年)に低下した一方で、黒人の割合は12.3%(1990年)から12.8%(2000年)に微増、アジア人が3.0%(1990年)から4.1%(2000年)に増加した。これをヒスパニックかどうかを加味して見ると、傾向がより顕著になる。

	1990年	2000年
ヒスパニック <sup>2</sup>	9.0%	11.9%
非ヒスパニック		
白人	75.7%	71.3%
黒人	11.8%	12.2%
アジア人	2.8%	3.8%

#### 2 スペイン語が公用語に？

センサスの付帯調査に面白い統計がある。家庭で英語を話していない人口がどれくらいあるかという調査<sup>3</sup>である。これによると、全米で17.6%の人が、家庭で英語を話していない。文末の表は、この割合が高い順に州別に並べ、そこに、センサス結果で得られたヒスパニックの人口割合を並べてみたものである。「家庭で英語を話していない人口割合」と「ヒスパニックの人口割合」との間の相関係数は、なんと0.900にもなる。つまり、ヒスパニックの人口割合が高くなればなるほど、家庭で英語を話していない人口の割合も高くなるという関係が、かなりの確率で説明できるというわけだ。

ワシントン周辺では、ヒスパニックの割合が比較的低いですが、それでもスペイン語に接する機会が多い。Social Security Number<sup>4</sup>を発行する社会保険事務所に行くと、英語の表示とともにスペイン語の表示が並んでいる。外国人が子供を現地校に入学させるために手続きを行う窓口には、スペイン語ができるスタッフが配属されている。電化製品を購入すれ

<sup>1</sup> <http://www.census.gov>

<sup>2</sup> 米国センサスは、4つの人種（白人、黒人、インディアン・アラスカ原住民、アジア・太平洋諸島人）と2つの民族（ヒスパニック、非ヒスパニック）により分類するよう、義務付けられている。<http://www.census.gov/population/estimates/rho.txt>

<sup>3</sup> 5歳以上が推計対象。

<sup>4</sup> 公的年金・高齢者医療の保険料支払い、給付の受け取り、所得税の申告などに利用される個人番号。外国人でも、就労していれば取得しなければならない。

ば、まず間違いなく英語とスペイン語のマニュアルが付属している。バスの中の表示も英語とスペイン語の併記だ。

### 3 多様化への対応コスト

家庭で英語を話さない人が家の外で英語を話していれば、特に問題にはならない。実はこの家庭で英語を話さない人のうち、約4分の1にあたる1050万人は、ほとんど英語が話せないとのことだ。1990年調査時点では600万人だったので、この10年間に急増していることになる。この主な原因の一つが、メキシコからの不法入国者の急増で、現在、全米で300万~500万人いると言われている。表でも、メキシコと国境を接する州が上位に並んでいる。9月初めにFox大統領が訪米した際、メキシコ側の最重要課題は「メキシコからの不法入国者への法的地位の付与」であった。Fox大統領は、90年代のアメリカ経済の繁栄は彼らに支えられたものであったとして、年内にも結論を出したいと意欲的だが、アメリカ議会は当然ながらそう簡単には受け入れられない。Bush大統領も5~6年かけて善後策を検討すると、及び腰だ。

アメリカの統一の象徴は星条旗と英語だったが、その片方が崩れかけている。多様性をよしとするアメリカ社会は、言語の多様化もさらに認めていこうとするのだろうか。筆者はマレーシアで3年間生活したが、そこではマレー系、中国系、インド系、オランダ系が共存している。彼らは、多民族共存の手段として、マレー語に加えて英語を公用語としていた。政府の公表文書や国営テレビのニュースは、すべてマレー語版と英語版が用意される。

公用語を2つ持つということは、相当な社会的コストを覚悟しなければならない。言語の多様性とその社会的コストを、アメリカ社会はどう判断するのだろうか。

州名	家庭で英語を話していない人口割合	スペイン系人口割合
CALIFORNIA	39.5	31.6
NEW MEXICO	35.5	40.7
TEXAS	32.0	30.2
NEW YORK	27.5	14.6
HAWAII	26.1	8.1
ARIZONA	25.8	22.7
NEW JERSEY	25.7	12.6
FLORIDA	22.1	15.4
NEVADA	21.8	16.8
RHODE ISLAND	19.6	6.9
ILLINOIS	19.3	10.5
MASSACHUSETTS	18.6	6.3
CONNECTICUT	17.8	8.5
<b>US</b>	<b>17.6</b>	<b>11.5</b>
<b>DISTRICT OF COLUMBIA</b>	<b>15.3</b>	<b>7.4</b>
COLORADO	14.3	14.9
WASHINGTON	13.7	6.5
<b>MARYLAND</b>	<b>12.7</b>	<b>3.9</b>
UTAH	11.8	7.1
ALASKA	11.6	4.0
<b>VIRGINIA</b>	<b>10.9</b>	<b>3.9</b>
OREGON	10.3	6.4
IDAHO	9.0	7.4
DELAWARE	8.9	3.7
GEORGIA	8.8	3.1
MINNESOTA	8.7	1.9
LOUISIANA	8.4	2.7
MICHIGAN	8.2	2.8
PENNSYLVANIA	7.9	2.7
WISCONSIN	7.7	2.7
INDIANA	7.6	2.6
MAINE	7.6	0.7
NORTH CAROLINA	7.5	2.3
NEW HAMPSHIRE	7.5	1.6
NEBRASKA	7.3	4.6
OKLAHOMA	7.1	4.1
KANSAS	6.2	5.6
IOWA	6.0	2.1
NORTH DAKOTA	5.7	1.1
WYOMING	5.6	6.1
OHIO	5.5	1.6
MISSOURI	5.3	1.7
VERMONT	5.2	0.9
SOUTH CAROLINA	5.1	1.4

TENNESSEE	4.9	1.2
MONTANA	4.8	1.8
SOUTH DAKOTA	4.8	1.2
ARKANSAS	3.8	2.1
KENTUCKY	3.5	0.9
ALABAMA	3.3	1.0
MISSISSIPPI	2.9	0.9
WEST VIRGINIA	2.2	0.6